

# 資料室便り

交通経済研究所資料室

## ■新着書棚から（新しく受け入れた資料の紹介）

### 『自動運転レベル4

—どうしたら社会に受け入れられるか』

樋笠亮士著／学芸出版社発行／2023年3月／A5判／172ページ／2,310円（税込）

自動運転の「レベル4」（ドライバーフリー）を許可する改正道路交通法が2023年4月から施行された。すでに国内外では完全自動運転車の運用に向けた取り組みが進んでいるが、技術の進歩とともに問題になるのが法・倫理的側面である。車内に運転手がない「レベル4」自動運転では、例えば「事故の際に誰が責任を負うか」、「急に飛び出した子供を避けるために、別の誰かを犠牲にしなければならない場合はどう判断するか」など、各場面に応じた法的・倫理的な整理が必要不可欠だ。本書では、自動運転の実装に立ちはだかるこうした問題を考えることで、誰がどんな対策を行い、各事業者の最初の一步につなげればよいかを各国の事例も交えながら提言している。 原□

## ■書庫のなかから（所蔵資料の紹介）

### 『市民と交通—現代の交通問題とその背景』

廣岡治哉著／有斐閣発行／1987年

本書は、都市交通の研究者（法政大学教授・執筆当時）が、交通問題を経済学的方法で考察したものである。著者は、運輸調査局（現・交通経済研究所）研究員、法政大学常務理事、日本交通学会会長、東京交通短期大学学長などを歴任した。交通にはさまざまな機能があり、交通サービスの供給は交通企業によって行われてきたが、自家用車の普及により、公共交通機関の市場が縮小し、

縮小した市場をめぐる、鉄道、バス、航空、ハイヤー、タクシーなどの企業が競争することとなり、自家用車中心の旅客交通体系、トラック中心の貨物輸送体系が作りだされた。しかし、自家用車利用に限界のある長距離輸送や大都市輸送では大量輸送の公共交通機関が中心となる。そして、都市交通の管理においては、効率・質・公平を目標とする管理指向型の交通政策が必要となる。本書では、日本、イギリス、アジア諸国の大都市などの交通政策について詳細なデータを用いて論じられており、有益な資料である。 古森□

## ■新着情報（2023年3月分）

- 1 「観光まちづくり」のための地域の見方・調べ方・考え方 國學院大學地域マネジメント研究センター編 朝倉書店 2023年3月
- 2 日本のローカル線150年全史—その成り立ちから未来への展望まで 佐藤信之 清談社 Publico 2023年4月
- 3 箱根の開発と渋沢栄一 武田尚子 吉川弘文館 2023年3月 →続きの情報はホームページで

\*上記以外の新着図書や新着雑誌につきましては、交通経済研究所資料室のホームページをご覧ください。入手した図書・雑誌がリアルタイムで確認できます。また、ホームページには月別の「新着図書目録」も掲載しています。



## ■資料室からのご案内

「資料室便り」は先月からコンパクトになり、情報をより凝縮してお届けしています。各種お知らせもホームページに掲載していきますので、併せてご覧いただければ幸いです。

担当：土方規義 古森崇史 原祥太 田邊由佳

\*資料室の所在地などの詳細は、本誌目次の前のページに記しています。ご来室のさいにはぜひご確認ください。